

はじめに

米国の学生が日本に短期留学のプログラムで訪問した際、教育実践体験として米国人学生が中心になってSTEM教育を中学校で実践しました。ストロー笛の作成を通して、仲間と対話的に議論をしながら、科学 (Science)、科学技術 (Technology)、工学 (Engineering)、数学 (Math) を融合して学び深めていくような内容で、工夫された興味深い授業実践計画でした。しかしながら、実際の授業では、学び手である日本人中学生同士の議論がなかなか進まずに、授業者が働きかけることが多くなってしまいました。日本人の中学生にとって、主体的に問題解決に参加し、仲間と対話的に議論しながら、学びを深めていくことは難しかったようです。

このような例に見られるように、小学・中学・高校・大学を通して、一斉指導の受身になりがちな授業に慣れてきたのが、日本人といってもよいと思います。しかし、近年では、自ら学ぶ力や創造力が学びでも重視されるようになり、教師中心の教え込み型の授業からの脱却が叫ばれています。2012年8月28日に出された「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（中央教育審議会答申）」では、「学士教育課程の質的転換」として「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。すなわち 個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである」と述べられています。

未来を予想することが困難な変化の激しい社会の中では、その社会で求められる教育も大きく変化するといえ、未来の教師に求められる変化への対応力は計り知れない程、大きなものになってくると考えられます。そこで、本書では、

将来の体育科教育を担う教師になっていくために、アクティブ・ラーニングを書籍で実現しようとする挑戦的なものです。体育の教科書といわれるものは、一般的に解説的なものが多く、あっても最後に内容にかかわるような質問が提示されるようなものでした。しかし、本書は、仲間と思考しながら学ぶことを可能にする構成へと転換しています（第3章と第15章を除く）。これが本書のウリともいえる部分であり、私たち執筆者が最も苦心した点でありました。

大学の初等体育科教育法の授業や小学校での体育関連の研修、そして個人的に読書しながら仲間と共に考える機会にぜひご活用頂きたいと思います。本書は「読み物」というよりは、「思考する源」であり、「思考を整理する情報提供」になるようなものです。これまで皆さんがイメージされる「体育科教育学」を学ぶための書籍とは、大きく異なった構成になっていると思います。各章は、知識を身につけるために使うのではなく、皆さんがこれまでの経験を通して学び深めてきた知識をベースとして、問題に向かい、その問題解決を通して新たな知識を生み出し、生み出された知識を整理するための情報提供をするような構成となっています。授業形態や研修形態を変化させていくためには、それを支える情報も変わらなければなりません。また、独学で学ぶ際にも、教師としての力量形成や授業改善に真に生かしていくためには、知識を覚えていくよりも、生きて働く知恵を学ぶ必要があると思います。そんな「教師となっていく学び手」を支える書籍との対話の仕方に対する考え方も革新的に変化させていく必要があると思います。

そこで、ぜひ本書を手にとってもらえればと思います。そして、今、教育界で求められる「主体的・対話的で深い学び」である「アクティブ・ラーニング」スタイルの学習形態を読書するという経験を通して感じて下さい。本書は、ただ流し読みをすることはできませんが、思考しながら読むことで、きっと読者の皆様は多くのことを創造し、自らの体育実践を改善に導くことができると思います。

読者の皆様の「出会い」を演出し、よりよい未来を「創造」していくための書籍が本書です。

2019年4月

鈴木直樹

アクティブ・ラーニングで学ぶ小学校体育の授業づくり

目 次

はじめに 鈴木直樹…i

第 I 部 体育の存在論

第 1 章 今の体育の「賞味期限」は？

— 体育の存在意義を考える — 鈴木直樹…2

1. みんなで考えよう！ 2
2. 体育は体力向上を目指すもの！？ 3
3. 体力テストの結果から考える 4
4. 現代の体育の賞味期限は？ 6
5. なぜ、賞味期限切れなのか？ 7
6. 「いま — ここ」を大切に！ 8

第 2 章 なぜ学習指導要領って変わるの？

— 体育の変遷を考える — 鈴木直樹…11

1. いつの時代の体育でしょうか？ 11
2. 体育の変遷 12
3. 生涯スポーツとの関連から考える体育の役割 15

第 3 章 体育科教育学を学ぶ人のために

— 学び続ける教師のニーズから — 〈座談会〉 石井幸司・大熊誠二…20

1. 「学び続ける教師」とは何か考えよう 20
2. 体育の授業で悩んでいること 21
3. なぜ体育ではマネジメント（規律・統制）が求められるのか？ 22
4. 教師の「できることに意味がある」という価値を問い直す 24
5. では、授業中に教師は何をすればいいの？ 26
6. 体育の授業で大切にしていることは 27
7. 教師として成長し続けるために大切なことは 28

第Ⅱ部 体育の学習内容論

第4章 体育という旅の目的地とは何？

— 体育の学習内容を考える —……………成家篤史…32

1. なぜ体育を「旅」と捉えるの？ 32
2. 「旅」の目標と目的地 35
3. 体育という旅の目的地 38

第5章 体育にはどんな学びの地図があるの？

— 運動領域の内容を考える —……………成家篤史…41

1. 「学びの地図」の二層性 41
2. 体育を通じて子どもたちが身に付けるべき資質・能力 42
3. 運動から考える「学びの地図」 44
4. 重なり合う「学びの地図」 48

第6章 どのように学びの地図がアップデートされるの？

— 運動領域の系統性を考える —……………成家篤史…51

1. 学びの地図のアップデート 51
2. 小学生という特徴 51
3. 認知面の発達段階 54
4. 発達段階を踏まえて学びの地図のアップデートを考える 56

第7章 体育という学びの旅をどのように計画するのか？

— 体育の学び方を考える —……………寺坂民明…61

1. 計画 (plan) を立てるとは？ 61
2. 計画 (design) するとは？ 65
3. 学び手の視点から「関係の場」を計画 (design) する 68

第Ⅲ部 体育の学習指導論

第8章 体育での教師の役割ってなに？

— 教師の役割を考える — …………… 石塚 諭…72

1. 授業の上手い教師になりたい！ 72
2. どのような役割が求められてきたのか 73
3. 今求められる教師の役割とは 76

第9章 なぜ評価なんてするの？

— 学習評価を考える — …………… 鈴木直樹…81

1. モノサシをもつということ… 81
2. 学習評価について考える 82
3. 何を評価するのか？ 84
4. 学習評価のいま — むかし 87
5. 学習評価の未来 88

第10章 授業をいつ「カイゼン」するのか？

— 授業改善の考え方と方法 — …………… 石塚 諭…91

1. カイゼン KAIZEN 91
2. 授業改善を実行するのはいつ？ 92
3. 授業改善（カイゼン）の視点としてのアクティブ・ラーニング 95
4. 同僚性を発揮する 97

第Ⅳ部 体育の授業づくり論

第11章 どうやって授業づくりをするの？

— 授業づくりのスタートを考える — …………… 石井幸司…102

1. 授業計画の立て方の問題点 102
2. なぜ、体育は技能を身に付けるだけではいけないのか？ 104

3. 運動のおもしろさをどう捉えるか? 105
4. これからの体育の授業づくりをもとめて 108
5. 「できる—できない」の狭間を楽しめる授業へ 100

第12章 サンマ(3つの間)(時間・空間・仲間)をどうやってデザインするの? —学習過程・学習形態を考える— … 鈴木直樹・大熊誠二…112

1. なぜ、体育が嫌いなのか? 112
2. 体育嫌いを生み出す要因 113
3. 体育授業の時間のデザイン～学習過程論 117
4. 体育授業の場(仲間・空間)のデザイン～学習形態論 119
5. 良質な“サンマ(3つの間)”を料理する!! 122

第13章 どんなモノを使って教えるの?

—教材・教具を考える—…………… 石井幸司…124

1. 「形」を身に付けるモノから「感じ」を味わうモノへ 124
2. 運動を学習者に合わせる 126
3. 運動のおもしろさから導かれる学習内容 126
4. ボール運動における教材づくりと教師の役割 127
5. 新しい教具・ICT 130
6. モノとの出会いをデザインしよう 132
7. 教材紹介 134
 - (1) 体づくり運動
 - 1) おいでよ! 風の森遊園地へ ……松田綾子 134
 - 2) バック投げ遊び ……石塚諭 135
 - (2) 器械運動系
 - 1) みんなで転がろう! コロコロワールド! ……黒澤有貴 136
 - 2) 跳び箱運動の気持ちいい感じを味わおう ……村上雅之 137
 - (3) 陸上運動系
 - 1) とびっこランド ……伊東徹也 138

2) My ギリギリ高跳び	…青木憲吾	139
(4) 水泳運動系		
1) エンジョイ！ スイミング！！	…北川修司	140
2) アンバランスな姿勢で浮かう・身体を動かしながら浮かう…	中嶋悠貴	141
(5) ボール運動系		
1) 宝運び鬼	…成家篤史	142
2) ろくむし	…石塚諭	143
(6) 表現運動系		
1) Let's リズムダンス！	…高嶋佑樹	144
2) 大変だ！ はげしい〇〇！！	…柄澤周	145
(7) 教具 教具の工夫のアイデア	…林田浩二	146

第14章 学習指導案の作成と実際 …………… 大熊誠二…148

1. そもそも「学習指導案」とは何か？	148
2. 学習指導案を作成する準備	150
3. 学習指導案の作成にあたって	151
4. 子どもたちが明るく元気に学ぶための学習指導に向けて	154
指導案例1 陸上運動（走り幅跳び）	
	…和氣拓巳 157
指導案例2 ボール運動（テーパーボール）	
	…白神彰大 161
指導案例3 表現運動（フォークダンス）	
	…木下友絵 165

第15章 授業から見える真実とは？

— 羅生門的アプローチから — …………… 石塚 諭…169

1. 羅生門的アプローチ	169
2. 視聴した授業の概要	170
3. 教師の語りから見える授業の姿	171

4. まとめ 180

あとがき..... 大熊誠二...181

執筆者紹介..... 184